

令和 8 年(2026 年)5 月

PIARC 日本国内委員会からのお知らせ

【PIARC 団体会員および個人会員の皆さまへ】

日頃より PIARC 活動へのご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。ROUTES/ROADS 最新号とともに、PIARC 技術レポート等ご案内いたします。2025 年から ROUTES/ROADS が完全デジタル化となり、皆様のお手元に紙面版をお届けできなくなりましたが、本案内は引き続きデジタル版発行に合わせメールにてお送りさせていただきます。最新号の特集は、2025 年 3 月に発行された 403 号に続き、再び「土工」です。世界の土木工事の 80%を「土工」が占めるといわれることを踏まえるとわずか 1 年で 2 度目となる特集も納得です。また、今号には昨年実施されたセミナー、発行されたレポートの紹介も記載されています。ぜひご一読ください。

1. ROUTES/ROADS 最新号 (407 号) の紹介

【特集】土工

ROUTES/ROADS

PIARC - World Road Association
www.piarc.org

n°407 - 4th quarter 2025



- ✓ 土工が未舗装道路の品質に与える影響 (コートジボワール) - 30 頁
- ✓ 軟弱地盤上の道路盛土における竹を用いたジオテキスタイルシステム (マレーシア) - 33 頁
- ✓ 2024 年 6 月の豪雨による高速道路 A09 号線の土砂崩れ事象分析 (オーストリア) - 37 頁
- ✓ 異常気象が道路盛土に与える影響 (チェコ) - 40 頁
- ✓ サウジアラビアにおける道路の土砂・岩盤斜面の評価・分析プロトコルの定義 - 43 頁
- ✓ 地盤インフラの観測・モニタリングマニュアル (ポルトガル) - 54 頁
- ✓ コートジボワールにおける道路維持管理の歴史 - 61 頁

2. 今号の主な記事の紹介

■最新情報(What's new?)

- ✓ PIARC 2025 年活動報告 - 4 頁
- ✓ 2025 年の国際セミナー・ワークショップ実績 - 25 頁
- ✓ 2025 年のテクニカルレポート発行状況 (計 16 件) - 34 頁

■特集(Features)

- ✓ 土工：インフラと環境における主要な課題 - 19 頁
- ✓ アルゼンチン・ブエノスアイレス州における農村道路 (未舗装路) 整備計画 - 20 頁
- ✓ スラッグの膨張による高速道路の舗装変形原因分析 (チェコ) - 25 頁

【シャンベリー冬期大会 からバンクーバー世界大会へ】

2026 年 3 月 10 日 - 13 日にフランス・シャンベリーで開催された第 17 回冬期サービスとレジリエンスに関する世界大会 (シャンベリー冬期大会) へご参加、ご協力をいただいた皆様、誠にありがとうございました。冬期大会史上最多の 2,000 人を超える参加者が集った今大会には、日本から 200 人余りが参加、技術セッションや日本パビリオンで日本のプレゼンスを示すことが出来ました。日本パビリオンでの技術展示情報や大会記録写真は、道路協会ウェブサイトからご覧いただけます。また大会論文集などを盛り込んだプロシーディングスも近々公開予定です。

2027 年 10 月 4 日 - 8 日にカナダ・バンクーバーで開催される第 28 回世界道路会議 (バンクーバー世界大会) に向けた論文募集が 5 月下旬に開始予定です。バンクーバー世界大会にも多くの皆さまにご参加をいただきたく、引き続きよろしくお願いたします。大会情報は当協会ウェブサイトにてご案内いたします。

道路協会ウェブサイト：

<https://www.road.or.jp/international/piarc.html>



3. PIARC パリ事務局からのお知らせ

新しく発行されたテクニカルレポートの紹介とともに、PIARC パリ事務局より最新のトピックスを紹介いたします。

～テクニカルレポートのご紹介～

①各地域での道路災害管理における調整・連携のためのレジリエンス構築における課題

【レポート概要】

本レポートでは、2025年5月に大阪で開催された道路協会とPIARCが共催した災害マネジメントに関するワークショップでの議論を取りまとめたものです。本レポートでは7つのトピックが特にフォーカスされており、「降雨強度と積算雨量の組み合わせによる高速道路閉鎖」、「イギリスでのレジリエンスを根付かせる活動」、「自然災害への対応力や調整を高める代替方法」、「国を跨いだ極端災害のインパクト」等が中心に議論されており、本委員会は、足立チェアを中心とし、日本がリードしている分野ですので、ぜひご覧ください。<レポート掲載ページは[こちら](#)>



②土工の脱炭素化(ケーススタディ集)

【レポート概要】

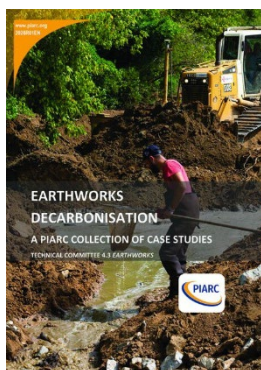
本レポートでは、世界の土工工事の80%を占めるとも言われる土工が、どのように環境へのインパクトを削減・軽減しているかに焦点を当てて、10か国から14事例の回答を基に作成されたレポートです。日本も既に環境配慮として様々な実施されているかと思いますが、他国での取組(設計段階でのCO2排出量の計算手法、施工時のCO2排出量の削減、代替材料や再生材料によるCO2削減方法等)が日本での施工検討時などに参考になれば幸いです。

<レポート掲載ページは[こちら](#)>

③舗装のカーボンフットプリント

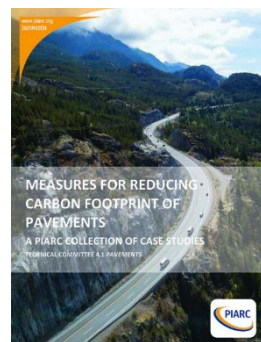
【レポート概要】

本レポートは、舗装のカーボンフットプリントに関する各国の取組をまとめたレポートです。ライフサイクル(生産・建設・利用・終末・リサイクル)を通した



カーボン排出削減の取組や、カーボンフットプリントの算出手法の紹介等も行っております。本トピックは先のシャンベリー大会でも論文が募集され数多くの投稿があった注目の分野となっています。今後11月に東京で行われる舗装 SURF 会議でも議論の一つになると思われますので、ぜひ本レポートもご参照ください。

<レポート掲載ページは[こちら](#)>



～PIARC パリ事務局便り～



テーマ：パリの地盤と土工技術の前提

パリの街並みを支えているのは、かつて足元の地下から切り出された「石灰岩(リュテシアン石)」です。日本のような激しい地震が極めて少なく、安定した石灰岩の地盤層があるパリでは、何百年も前の石造り建築がそのままの姿で残っています。19世紀半ばのオスマン様式のアパートが今なお現役なものも、この地盤条件が大きく関係しています。

建物同士が隙間なく連続し、高さが揃った景観が維持できるのも、地震による衝突や挙動の違いを考慮する必要が無い「無地震地帯」に近い設計条件が前提になっていると感じます。実際、パリ周辺は欧州の構造基準8(Eurocode 8)において地震リスクが最も低い区分に分類されており、構造設計は地震荷重よりも、交通による活荷重や風荷重、温度変化などが支配的です。

一方で、安定した石灰岩層があることにより、地下空間の活用が古くから進みました。無秩序に利用が進んだ結果、人工的な地下空洞が後に地上の建物の崩落につながることもあり、1961年にはパリ近郊で21人が亡くなる崩落事故も発生しています。

「地震荷重」や「軟弱地盤」といった自然環境が厳しい日本とは対照的に、パリの土工・構造技術は「安定した地盤」という前提の上に成り立っています。ただし、その裏には過去の人工的な影響など、別のリスクも存在しています。

場所が違えば、技術の常識もまた異なるということ、パリの石造りの景観から実感します。



文責：広地豪

PIARC 活動に関するご意見、ご質問等ございましたら、以下までご連絡いただければ幸いです。

PIARC 日本国内委員会事務局 安藤:ando@road.or.jp
PIARC 本部事務局 広地:go.hirochi@piarc.org